

通し番号	5175
------	------

分類番号	R05-24-15-01
------	--------------

三浦半島地域における抑制栽培に向くカボチャ品種‘栗のめぐみ2号’の栽培特性を明らかにしました

[要約] 抑制栽培に向くカボチャ品種‘栗のめぐみ2号’は、抑制栽培（8月中旬播種、8月下旬定植）すると、11月から12月中旬にかけて収穫できる。密植栽培（株間50cm、畝間300cm、667株/10a）により、面積当たり収量は‘みやこ’の2倍を超える。また、‘栗のめぐみ2号’は短節間性と株元着果性を有し、‘みやこ’や‘ジェジェJ’と比べて日焼け果率が低い。

神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所

連絡先 046-888-3385

#### [背景・ねらい]

三浦半島地域では夏季にカボチャの栽培が盛んであり、抑制カボチャの安定生産ができれば、冬作の主要品目であるダイコンやキャベツの代替品目となる可能性がある。そこで、短節間性で株元着果性を有し、果実収量が高い抑制栽培に向くカボチャ品種‘栗のめぐみ2号’について、栽培特性を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 ‘栗のめぐみ2号’は8月中旬播種、8月下旬定植で、11月から12月中旬にかけて収穫できる（表1）。
- 2 ‘栗のめぐみ2号’の密植栽培（株間50cm、畝間300cm、667株/10a）における面積当たり収量は、‘みやこ’の標準栽培（株間50cm、畝間500cm、400株/10a）の2倍以上である（表1、2）。
- 3 ‘栗のめぐみ2号’は‘みやこ’と比べて、生育初期に顕著に短節間性を示し（データ省略）、株元着果性を有する（表2）。
- 4 ‘栗のめぐみ2号’は‘みやこ’や‘ジェジェJ’と比べて、日焼け果率が低い。また、食味調査の総合評価は同等である（表2）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 本試験では、検定品種‘栗のめぐみ2号’に対し、三浦半島地域の夏作で一般的に用いられている‘みやこ’（サカタ）を標準品種、短節間性を有する既存品種‘ジェジェJ’（渡辺採種）を対照品種として用いた。
- 2 ‘栗のめぐみ2号’は農研機構北海道農業研究センターと朝日アグリア（株）が共同育成した（出願番号 第37608号、出願日 令和6年9月17日）。本試験は農研機構と朝日アグリアとの共同研究契約に基づく委託試験で実施した。
- 3 ‘栗のめぐみ2号’の株元着果率は年次により変動する。
- 4 抑制栽培の期間は台風シーズンにあたることから、風雨への対策が必要となる場合がある。

[具体的データ]

表1 耕種概要<sup>z</sup>

播種日	定植日	収穫日	区分 <sup>y</sup>	株間 (cm)	畝間 (cm)	栽植密度 (株/10a)
2023/ 8/17	8/29	11/9~12/15	検定品種 栗のめぐみ2号	50	300	667
			標準品種 みやこ	50	500	400
			対照品種 ジェジェJ	50	300	667

z:ベッド幅 100 cm、つる先 400 cmとし、ベッド部分にはシルバーマルチを展張した、y:検定系統および対照品種は短節間品種・系統であることから密植栽培とした。

表2 各系統・品種の株元着果率等の特性

系統・品種	株元着果率 <sup>z</sup> (%)	株当着果数(個/株)	平均果重(g)	面積当収量 <sup>y</sup> (t/10a)	日焼け率(% <sup>x</sup> )	糖度(°Brix)	食味調査総合評価 <sup>w</sup>
検定品種 栗のめぐみ2号	11	1.9	1,650	2.1	9	10.8	3.1
標準品種 みやこ	0	1.8	1,256	0.9	97	13.2	3.1
対照品種 ジェジェJ	0	1.3	2,017	1.7	35	13.0	3.0

z:株元から60cm以内に着果している果実を株元着果とし、収穫果実に対する株元着果の割合を株元着果率とした、y:面積当収量は、平均果重×面積当収穫果数により算出、x:日焼け率は日焼け程度が1(果実表面の一部が茶色に変色している)以上の果実の割合、w:総合評価は1不良~5良により評価。



図 供試した系統・品種の収穫物の外観および縦断面(2022年撮影)

- [資料名] 令和3~5年度試験研究成績書(三浦半島野菜)  
 [研究課題名] 短節間カボチャ「20K05」の抑制栽培における栽培特性検定試験  
 [研究期間] 2021(平成3)年度~2023(令和5)年度  
 [研究者担当名] 佐藤忠恭、太田和宏